

大江川下流部公有水面埋立てに係る準備書の論点整理

1 事業の目的及び内容に関する事項

	項目	課題、指摘事項等	審査会の意見（骨子案）
1	累積的影響	名古屋港において、これまで繰り返し実施されてきた埋立地の造成の累積的な影響により、汽水域の動植物が危機的な状況にある。	関係機関と連携し、名古屋港湾全体の汽水域の状況把握に努め、名古屋港港湾計画に示す環境施策等に着実に取り組むこと。
2	埋立て後の土地利用計画	埋立て後の整備内容、維持管理方法の詳細は未定となっている。	土地利用計画を具体化するにあたっては、周辺住民への情報提供に努め、維持管理方法も含め、住民の要望を踏まえて検討を行うこと。

2 予測・評価等に関する事項

	項目	課題、指摘事項等	審査会の意見（骨子案）
3	全般的事項	本事業では、施工主体によって工事施工者が分かれているため、それぞれの施工区域の境目になる部分から汚染物質等が流出する可能性が高まる。	工事の実施にあたっては、工事施工者間で連絡調整を行うとともに、情報共有を密に行えるような体制づくりに努めること。
4	全般的事項	施工区域上流側には、住居・学校が隣接しており、工事予定期間が約 10 年と長期間である。 さらに、工事関係車両が長期にわたり通学路や住居が面した道路を走行することとなる。	周辺の住民等に対し、事前に工事内容を丁寧に説明するとともに、苦情等が発生した場合には適切に対応するなどの措置を講ずること。
5	大気質 (水面の埋立てによる大気汚染)	ボックスカルバート設置時、非盛土部の地盤改良の際に有害物質を含むヘドロ層が露出し、雨風にさらされる時期が生じる。 粉じんに係る環境保全措置はその効果の確実性に乏しい。	ヘドロ層に有害物質が含まれていることを踏まえた予測・評価を行うこと。 ヘドロ層に含まれる有害物質に係る大気質の状況について、事後調査を行い、必要に応じて適切な措置を講ずること。
6	大気質 (建設機械の稼働)	施工区域上流側に隣接する住居付近で建設機械の稼働が集中する際の影響について予測・評価がされていない。	施工区域上流側に隣接する住居付近で大気汚染物質排出量が最大となる時期の予測・評価を行うこと。

	項目	課題、指摘事項等	審査会の意見（骨子案）
7	悪臭 (工事中)	ヘドロ層を含む底質が露出する時期が最も悪臭の影響があると考えられるが、適切に予測・評価がされていない。	ヘドロ層を含む底質の露出に伴う悪臭の程度や悪臭に係る影響が大きくなる施工内容を明らかにし、予測・評価を行うこと。 また、工事中にヘドロ層が露出する時期には、悪臭の状況について事後調査を行い、必要に応じて適切な対策を講ずること。
8	騒音 (建設機械の稼働)	施工区域上流側に隣接する住居付近で建設機械の稼働が集中する際の影響について予測・評価がされていない。	施工区域上流側に隣接する住居付近で騒音レベルが最大となる時期の予測・評価を行うこと。
9	振動 (建設機械の稼働)	建設機械の稼働による振動が規制基準以内であるものの、住居が隣接する施工区域上流側で最大値 72dB であり、感覚閾値 55dB 以上である範囲も広範囲になると予測されている。	施工区域上流側に隣接する住居付近で工事を実施する際には、丁寧な作業に努めるなど、周辺の生活環境に十分配慮すること。
10	騒音・振動 (工事関係車両の走行)	施工区域上流側には、住宅地・学校が存在するため、走行時間、速度及び交通量について配慮が必要である。 ルート 4 では、工事関係車両の走行により騒音が 2dB、振動が 7dB 増加する予測結果となっている。	周辺の地域特性を踏まえて、工事関係車両の適切な配車計画等を検討するとともに、沿道環境に対する影響を低減すること。
11	水質・底質 (工事中) 地下水 (工事中)	有害物質の拡散・流出に対する措置として、エコチューブ袋に収納し、埋戻す計画としているが、袋詰め脱水処理工法の説明が不十分であるため、当該措置による効果を適切に把握できない。	袋詰め脱水処理工法の効果を分かりやすく説明し、予測結果の妥当性、信頼性を明らかにすること。
12	水質・底質 (工事中)	矢板打設後、施工区域内からの排水は濁水処理設備又は有害物質排水処理施設にて適切に排水処理を行うとあるが、排水経路の説明が不十分である。	工事施工手順に応じた排水処理の計画を分かりやすく詳細に示すこと。

	項目	課題、指摘事項等	審査会の意見（骨子案）
13	水質・底質 (工事中)	有害物質を含むヘドロ層の改良時の排水は有害物質排水処理施設にて適切に排水処理を行うとしているが、気候変動による短時間豪雨にも対応する必要があるのではないか。	短時間豪雨の可能性も考慮した有害物質排水処理施設の仕様、有害物質処理の方法及び排出水の管理方法を示すこと。
14	地下水 (工事中)	地盤改良に先立ち、水面と分離するため鋼板矢板を打設するが、矢板がヘドロ層を貫通することになる。 有害物質を含む汚染土の封じ込めという事業特性を踏まえると工事中、供用時ともに周辺への有害物質の漏洩がないことが重要である。	地下水の事後調査について、適切な期間、頻度及び地点で実施すること。
15	水質・底質 (存在時)	水象の予測において、流速が減少するが元々の流速が小さいことから、その影響は小さいと考えられるとあるが、流速が減少すると COD は希釈されにくくなる可能性がある。	流速が減少すると COD 濃度が上昇する可能性があることを踏まえた予測・評価を適切に行うこと。
16	地盤	解析手法・条件の説明が不十分であり、予測結果の妥当性を十分に検証できない。	予測条件を根拠も含めて分かりやすく示し、予測結果の妥当性及び信頼性を明らかにすること。
17	地盤	予測結果において、相対沈下量と平均傾斜角が限界角を超過又は限界値もしくは限界角の範囲に含まれている地点がある。	工事の実施にあたっては、盛土の計測や地盤変形の観測等により地盤への影響の把握に努め、必要に応じて適切な対策を講ずること。 また、工事前及び工事完了後に家屋調査を行い、工事による影響が確認された場合には、適切な措置を講ずること。
18	安全性	工事関係車両の走行ルート上に近隣の小学校が指定している通学路と接する箇所がある。	マウントアップや信号機等が整備されているため、交通安全への影響は小さいと評価しているが、交通誘導員の配置や徐行の徹底により、交通安全に係る影響を回避・低減する措置を講ずること。

	項目	課題、指摘事項等	審査会の意見（骨子案）
19	廃棄物等	工事中に約 2,000t 発生するアスファルトマットの再資源化率が 0% である。	リサイクル技術の情報収集に努めるとしているが、さらに収集した知見を踏まえ、適切な再資源化に係る措置を講ずること。
20	植物 動物	事業予定地内で確認された動植物について、事業予定地周辺に確認情報があるため工事による影響は小さいと評価しているが、水面の埋立てにより生育環境が消失することが評価されていない。	水面の埋立てにより生育環境が消失することを踏まえた評価を適切に行うこと。
21	動物	既存資料調査では確認されたスナメリについて、現地調査では確認されていないことにより、予測・評価が行われていない。	名古屋港湾におけるスナメリの生息状況について情報収集に努めるとともに、工事中に生息が確認された場合には、必要に応じて工事による影響を軽減するための措置を講ずること。
22	動物	生物の生息域を奪わないよう、専門家と相談し、特性に合わせた工事計画を作成する必要があるのではないか。	重要な水生動物種の移動能力を踏まえ、可能な限り工事による影響を軽減するための工事計画を検討すること。
23	人と自然との 触れ合いの活 動の場	大江川左右岸道路について、通常工事が行われる平日の利用者数が休日よりも少ないと評価しているが、必ずしもそうとは限らないのではないか。	平日の利用状況の把握に努め、必要に応じて適切な措置を講ずること。

3 その他

	項目	課題、指摘事項等	審査会の意見（骨子案）
24	記載内容の表 現等	建設機械の稼働による大気質の予測において、排出ガス対策型の諸元を使用して予測しているように読めるが、実際には非対策型の諸元を使用している。 最下流護岸に存在する既設鋼矢板の配置及び延長について図が示されているが、既設鋼矢板の深さなど図の内容について詳細に記載されていない。	記載内容の誤りは適切に修正するとともに、調査や予測の条件を詳細に記載するなど、市民に分かりやすい図書となるよう十分に配慮すること。